

**製品名: TPH1 (リン酸化 Ser260) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05572**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	55kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TPH1
別名	TPH1; TPH; TPRH; TRPH; Tryptophan 5-hydroxylase 1; Tryptophan 5-monoxygenase 1
遺伝子 ID	7166.0
SwissProt ID	P17752
免疫原	抗血清は、Ser260 のリン酸化部位周辺のヒトトリプトファン水酸化酵素由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 231-280

**背景**

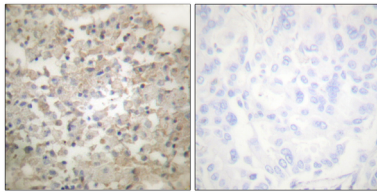
この遺伝子は芳香族アミノ酸水酸化酵素ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、重要なホルモ

ンであり神経伝達物質であるセロトニンの生合成における最初の段階、かつ律速段階を触媒します。この遺伝子の変異は、統合失調症、身体不安、怒り関連特性、双極性障害、自殺行動、依存症など、様々な疾患や障害のリスク上昇と関連付けられています。 [RefSeq 提供、2009年4月], 触媒活性: L-トリプトファン + テトラヒドロビオプテリン + O(2) = 5-ヒドロキシ-L-トリプトファン + 4a-ヒドロキシテトラヒドロビオプテリン., 補因子: Fe(2+)イオン., 経路: 芳香族化合物代謝; セロトニン生合成; L-トリプトファンからセロトニンを生成する: ステップ 1/2., 類似性: ビオプテリン依存性芳香族アミノ酸水酸化酵素ファミリーに属する., 類似性: 1つのACTドメインを含む., サブユニット: 同一のサブユニットの多量体., 組織特異性: アイソフォーム2はアイソフォーム1よりも広く発現していないようである.,

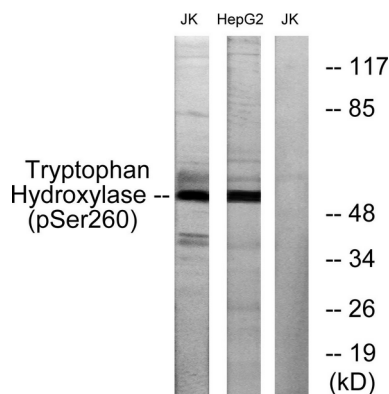
## 研究分野

トリプトファン代謝

## 画像データ



トリプトファン水酸化酵素 (リン酸化 Ser260) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



トリプトファン水酸化酵素 (リン酸化 Ser260) 抗体を用いた Jurkat 細胞および HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。